

利賀っ子だより



R 3 . 5 . 6

2年ぶりの小中合同運動会に向けて

5月16日（日）に予定している小中合同運動会の準備が着々と進んでいます。

昨年度末には、中学生と一緒に運動会のスローガンを考えました。そして、新年度を迎えた翌週には、団員発表があり、団テーマを決め、結団式がありました。小中学生全員でグラウンドの石拾いや除草もし、現在は、競技種目や開閉会式の練習に取り組んでいます。

運動会スローガン「声出せ 汗出せ パワー全開」は、当日だけでなく、練習・準備から子供たちの活動の礎となっています。

《子供たちの姿から》

○ 鼓笛練習



運動会の入場は、小学生による「利賀村讃歌」の鼓笛演奏で行います。

利賀小学校では、毎年、前年度末から練習を始め、運動会に向けて仕上げるという計画で準備をしています。

山村留学生の6名も急ピッチで担当した自分のパートの練習に取り組んで

います。

初めは、「難しい。」「できそうにない。」と話していた子供たちも、時間を見つけて練習をし、驚くほどに上達しました。「できるようになりたい」という思いが、行動になったときの力には、感心させられます。

○ 民謡「むぎや節」

もう一つ、山村留学生ががんばっていることが団体演技「むぎや節」です。

男子は笠の持ち方や回し方、女子は手や足の動かし方等、子供同士で教え合いながら繰り返し練習をしています。



先月は、保存会の方にもお越しいただき、細かい所作について教えていただきました。

「知りたい」と思うときに、すぐに学ぶことができる環境があることが、伸びていくための大切な要素であることをあらためて感じました。

○ 試して考える



団体競技「台風の目」の練習場面です。高学年を中心にどのように動いたら、速く、そして、安全に走ることができるかについて、実際に試しながら相談をしていました。

指導者が「〇〇に気を付けて、走りましょう。」と指示してしまえば簡単で確実ですが、今年度の重点目標「他と関わりながら、自分で考え、判断し、行動する」の実現を意識し

た指導場面を見ることができました。

きっと、自分たちで考えた方法がうまくいったとき、達成感を感じるであろうし、うまくいかなかった場合は、「今度こそ」という次のエネルギーが生まれるだろうと思っています。そうすることが、時間はかかっても着実に子供たちの力になるのではいかと思います。

○ 中学生の姿を見て

中学生と一緒に活動する機会が多いのが利賀小学校の特徴の一つです。

この日は、運動会の開会式で行う決意表明の練習を小中合同で行いました。中学生は、説明の仕方、声のかけ方等、小学生の反応を見ながら考えていました。その姿が、小学生にとっては、ロールモデルとなっています。ロールモデルがすぐ身近に、そして、何人もいることは、小学生の成長を促すために大きな意味があると思っています。



(校長 高田 公美)